



NO.35 2012年 1月

発行 特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい

昭島たすけあいワーカーズ 大きなかぶ

理事長 坂元 泰子

〒196-0025 昭島市朝日町1-4-12

マルマンビル201

TEL 042-545-0890 FAX 042-519-5891

E-mail : act21-ookinakabu@tune.ocn.ne.jp

新年あけましておめでとうございます。



昨年は東日本大震災、原発事故と、私たちの世界が大きく揺れ動いた年でした。そしてこれまでの暮らしを振り返り、多少不便でも、安全で安心して生活できることの幸せを心から実感した年でもありました。まだ大きな悲しみを抱えたままですが、被災地の復興の兆しを耳にすると、改めて人の持つ力のすごさに感動します。

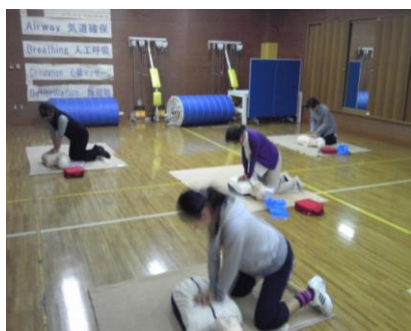
大きなかぶでは、当日の情報・交通網の遮断・帰宅難民等の問題を受け止め、災害対策を見直す必要がありました。独自の対策を立てていますが、地域でも多くの事業所が連携してすすめています。災害が起こらないことを祈りつつ、日頃から地域や関係機関との繋がりを密にして、被災した時にたすけあう力を結集できるようにしておくことが必要と考えています。

今年はみんなが笑顔で過ごせる一年になりますよう、心から祈っています。

ところで、大きなかぶの5年先、10年先のあるべき姿について考える、中長期プロジェクトが始まりました。収益事業だけでなく、地域のみなさまそして私たちが自分らしく暮らしていくために、NPOとして何ができるのかを検討していきます。

研修しました!!

- 10月「普通救急救命講習」
昭島消防署にて



心肺蘇生法の練習中

協力しました!!

- 横浜国立大大学院生の研究
「介護労働者であるワーカーズ・コレクティブメンバーの新たな特徴 - A市NOP法人Kの事例から -」
データ提供と大きなかぶメンバーへのヒアリング



「私たちが思っていること」



私は祖父母のいる三世帯の家で育ちました。

祖母は体が弱く、家の中は 歩行器を使って 移動をしていました。そんな祖母の体がますます動かなくなり、全ての時間を自室で過ごすようになりました。祖母一人の食事は味気がなくさみしいだろうと、食事の間一緒に過ごすのが孫達の日課になっていました。また、夜には「冷えて仕方がない。」と言う祖母の足を テレビを見ながら擦り、お小遣いを貰うのも私たち 孫の楽しみでした。そして、「病院には行きたくない、このまま家で過ごしたい」と言う祖母の思いを受け止め、最期を自宅で看取ることができました。

その後、進学、就職、と考えた時、祖母との時間が好きだったことに気づき、高齢者の介護につきました。始めは施設に勤め、沢山の高齢者に囲まれ 充実感を覚えていましたが、そのうち排泄、入浴、食事と全て時間に追われ、介護ではなく作業になっている、入所者個々の思いを聞きながらも、充分に対応できないもどかしさに不満を感じるようになりました。

結婚を期に退職をしましたが、育児が落ち着き、復職を考えた時、やはり介護の仕事に戻りたいと思いました。独身の頃は、訪問して家事をすることは絶対に出来ないと思っていましたが、10年程の主婦経験を経て、今なら身体介護だけでなく調理や掃除、買い物等の支援ができるかもしれないと思い、大きなかぶのメンバーになりました。

制度の中の訪問介護では、お出掛けの洋服を見にいきたい。ゆっくりお茶を飲みながら話を聞いて欲しい。配偶者やご家族が寝たきりで目が離せない為外出ができない。買い物や通院、用事が出来た時だけでも留守番をして欲しい。見守りだけしていただければ良いのだけれどなど、挙げればきりが無いほど利用者のニーズに添えないことが多く、制度の窮屈さや柔軟性のなさ等にもどかしさや、やりがいのなさを感じます。

でもそれ以上に、自宅の中や外出時の移乗・移動、入浴や排泄、食事介助などがご本人やご家族の負担軽減につながったり、また買い物や調理では食材選びから調理法など、その方々に適した支援を行うことで、利用者さんと共に生活を維持向上させていけることに喜びを感じます。ケアを行いながらお話を伺い、向かい合わせていただける時間は訪問介護の特権です。容体が悪化したりご自宅での生活が困難になった時には、入院や入所となりケアが終了しますが、ご自宅での最期を望まれる場合は、精神的にはキツく、重圧を感じることもありますが、最期の時を共に過ごす貴重な体験をさせていただきやりがいを感じます。

これからも、利用者さんが慣れ親しんだご自宅でできるだけ快適に生活を続けられる支援をしていけるよう、経験を積み、学んでいきたいと思えます。

F・T





デイサービス 大きなかぶ

国際福祉機器展

『老いても障害を持って、私らしくこの街で暮らし続けたい』福祉機器を適切に活用すれば、そんな願いに少しでも応えられるのではと、通所研修に国際福祉機器展見学を組み込み、デイスタッフ6名で行ってきました。当日は広い会場のさまざまな展示コーナーを分担して回り、それぞれが日頃興味のある分野をじっくりと見学できました。

女性スタッフは主に食事、衣類、リハビリ機器等のコーナーを回り、最新の技術や機器を見学しました。他動で身体を動かすリハビリ機器に人気が集まっていました。

男性スタッフは主に福祉車両や防災関係を見学しました。道路の幅を気にせず助手席を乗降できる装置など、新しい技術も散見されました。

高価であったり、現状のデイには適していなかったりと、すぐに『これ』というものが見つかりませんでした。最新の情報を見聞きすることで福祉機器活用への意識を高めることができました。(平泉)

ボランティアの活動

今年になり、大勢のボランティアさんが利用者の皆さんにパフォーマンスをご披露くださっています。ボランティアの皆さん本当にありがとうございます。



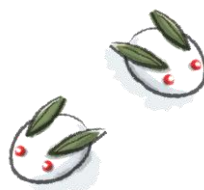
お正月 南京玉すだれ



毎月1回 フラダンス



毎月1回 民謡踊り



毎月1回 大正琴



ポエム

山崎 真弓
(ACT 会員)

くるくる まわる かさ いいなー

かさ あめあめ ぱれぱれ かあさんが♪♪♪

かさ くるくるまわし みずたまりを ながぐつはいて あるきたいなー

かさ かあさんは あるけるようになったらと おしえてくれた

かさ まつばづえで あるけるようになった、が、かささしてはあるけん

かさ まつばづえなしで あるけるようになった。が、おっと、と、と、と

かさ、もったら ずっこけた

かさ ねたきりとなって やっとさせたよ

かさ いらしぎかな

かさ ざー ざーと たのしくはすむ あめのしずく

かさ ヘルパーのおす くるまいすにのって じぶんでかさ させてるもん

よろこびかんじてるんだもんね～



編集後記

私の干支が来た。

あと4回、

年女になれるように

日々、

健康に気をつけ

笑門来福 を

モットーに過ごすぞ！

